

特集1・光陵高校40周年記念式典

2006年6月20日(火)に光陵高等学校創立40周年記念式典が鎌倉芸術館で執り行われました。記念の年に在学することになった幸運な生徒たちをはじめ、保護者、PTA、学校関係者らが招待された記念式典は、柴田校長先生による開式の言葉をうけて華々しく幕を開けました。

記念式典実行委員会の高木真美委員長の挨拶に始まり、数々寄せられた祝辞の中で特に目立ったのは「40年間培ってきた光陵高校の雰囲気을大事にしたい」という熱い思いでした。やはり光陵高校を思うとき、行事などを通じて先輩後輩のつながりを学ぶことや、学業をおろそかにしないという気質などは、これからも残していきたい良いものとして思い起こされるのでしょうか。その思いを一番熱く語ったのがPTA会長の穴澤秀隆氏でした。

自身も光陵高校の卒業生でありながら、しかも今年はその娘さんも光陵に入学されるという、二代にわたって光陵高校に関わっている穴澤氏。彼は勉強だけではない得がたいことを光陵で学んだと語り、ぜひ充実した時間を光陵ですごして欲しいと在校生にエールをおくっていました。

そして式典のもうひとつの目玉は、神奈川フィルハーモニーによるオーケストラコンサートです。なんとフィルハーモニーはこの日のために光陵高校校歌のオーケストラバージョンを用意して下さったのです！聞き慣れたあのメロディーがオーケストラによって、より重厚なメロディーに生まれ変わる。これには参加者全員が驚き、そして満足したことでしょう。

その後行われた祝賀会では、現在の光陵高校校歌を作詞した5代目校長、石渡英雄先生によるスピーチが印象的でした。“光陵我をつくり、我ら光陵をつくる”このフレーズが印象的な校歌が、まだどんな所にどんな校舎ができるのかわからない状態で紡がれていたというのです。当時国語教師だった石渡先生がまだ見ぬ光陵を思い、『光陵の歌』として作った歌詞が、現在の光陵の校歌となったそうです。

こうして華々しく、かつ心をこめて光陵高校の40周年は祝われました。式典を通して感じたのは、「光陵高校は本当に多くの人に愛されている」ということです。このように愛され、何年経っても懐かしく思われる場所はそう多くはないのではないでしょうか。私たち光陵会も、このような卒業生と光陵高校との絆を深めるお手伝いをさせていただけることにあらためて喜びを感じた日でした。



5代目校長・石渡英雄先生